

NGO外国人救援ネット・ニュース, No.5

NGO外国人救援ネット, 1998.4.20

請求記号:震災-6-z33. - 10p

* 震災関連記事のみテキスト化しています

巻頭言

外国人救援ネット副代表 飛田 雄一
(神戸学生青年センター館長)

「フット&ネットワーク？」

外国人救援ネットが独立から3年目に入っている。地元NGO救援連絡会議の分科会からの独立である。

「震災以前のこと震災以後に起こっている」とは、私達がよく口にした言葉だ。震災以前の地域における老人の位置付けがそのまま被害の大きさ、あるいは救出率の大小に影響したといわれているように、震災以前に外国人がおかれていた状況がそのまま震災後の外国人の困難に繋がった。高額医療費支払問題しかり、一部外国人弔慰金未支払問題しかりであった。特に震災後の半年間は、これら難問を解決するために奔走した。東京に交渉に出かけた時に、霞ヶ関でかの「サリン事件」に遭遇したこともあった。

しかしながら救援ネットの活動は、当初の震災に直接関連する活動から日常的な外国人支援活動に移っている。事務局会議で毎回報告される「相談事例」は、そのまま日本における外国人の状況を示している。結婚、離婚、出産、交通事故、解雇、労災などなどである。解決能力をどこまで発揮できているのかという不安もあるが、多くの協力者に支えられて当事者の身になって努力している。「震災以前」が問題であったからこそ、未曾有の震災を経験した私たちは、この日本社会を、外国人にとっても日本人にとっても同じ空間を生きていて楽しい社会に変えていくための活動を進めていきたい。

スローガンは、「強いネットワーク、軽いフットワーク」でいこう。

市民とNGOの「防災」国際フォーラム

救援ネットボランティア 森田 豊子

まだ寒さの厳しい冬の日、1月15日から17日にかけて神戸では防災フォーラムが開催されました。我がNGO外国人救援ネットには、フィールドワークのプログラムの一環として全国から約30名の見学者が訪れました。メンバーの飛田氏による、地震後の神戸の様子、救援ネットの生まれた経緯の説明や、事務局の尹さんによる現在行われているホットラインに寄せられる相談の傾向などのお話のあと、活発な質疑応答がなされました。その後、参加者は、飛田さんをガイドに三宮近辺を散策した後、サンパル横で、世界各国のエスニック料理に舌鼓をうちました。我々の活動についての理解されただけでなく、現在の神戸の多様な姿、外国人のおかれている現状について実感されたのではないのでしょうか。
